

がん悪液質が切除不能膵癌2次治療の有効性と血液毒性の発現に及ぼす影響

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

がん悪液質とは、食欲不振や倦怠感、骨格筋の減少等を認める病態のことで、特に膵癌患者さんでは合併する頻度が高いと言われています。また、がん悪液質は化学療法の効果の減弱や副作用の増強、生存率にまで影響を及ぼすことが知られています。

切除不能膵癌の1次治療が効果を示さなかった場合や、副作用などで継続困難になった場合、2次治療として、mFOLFIRINOX療法（4種類の薬剤を組み合わせた化学療法）やna1-IRI+5-FU/1-LV療法（3種類の薬剤を組み合わせた治療法）等がありますが、患者さんのQOL（生活の質）を保ちながら治療するためにも、慎重な治療選択が求められます。

この研究では、mFOLFIRINOX療法、na1-IRI+5-FU/1-LV療法の有効性、副作用発現とがん悪液質との関連性を調査することを目的としています。

診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2015年1月～2025年1月に当院において2次治療でmFOLFIRINOX療法、na1-IRI+5-FU/1-LV療法を受けられた方

使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、既往歴、膵癌ステージ、治療歴（薬物療法、手術）、パフォーマンスステータス、血液検査（Alb、CRP、血算、血液像、Cre、AST、ALT、T-bil、Na、K、Cl、TP）、投与量（オキサリプラチン、イリノテカン、5-FU）、UGT1A1遺伝子多型、治療継続期間

使用開始予定日：2025年8月15日

研究予定期間

2025年8月15日～2027年3月31日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

〔研究の情報管理責任者〕 薬剤部 白尾祐樹

〔当院の個人情報管理責任者〕 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を

閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 薬剤部 白尾祐樹

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)